

中央体育館建て替え 「基本計画」見直しへ

市は2019年2月、「西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備事業基本計画」を策定。同年9月議会にも債務負担行為(事業が複数年にわたる契約等で発生する債務をあらかじめ設定する行為)の補正予算が提案されるところでしたが、8月、突如、予定していたプロバスケットボールチームのホームアリーナ利用の辞退を受け、このほど、「基本計画」の具体的な見直しが公表されました。

施設	現況	基本計画(想定値)	見直し後(想定値)
施設規模(延べ床面積)	約6,000㎡	約15,000㎡	約13,000㎡
観覧席	1,344席(固定)	3,500席以上(固定・移動)	3,000席以上(固定・移動)
整備費(概算)		133.6億円	126.6億円
① メインアリーナ	1,710㎡	2,470㎡	2,470㎡
② サブアリーナ	なし	900㎡	700㎡
③ 武道場	820㎡	1,600㎡	1,600㎡
④ スポーツ活動諸室	なし(③を転用)	300㎡	なし(③⑦を転用)
⑤ 控室等	なし	150㎡	15㎡
⑥ トイレ	200㎡	700㎡	300㎡
⑦ 会議室	84㎡	なし	200㎡

そもそも中央体育館は、老朽化のため現地での建て替えが必要として、2016年3月に基本構想が公表されて以来、さまざまに議論されてきました。

特に、「する」スポーツだけでなく、「観る」スポーツを推進するとして、5,000人の観覧席や来賓控室を備えたプロバスケットチーム(西宮ストークス)のホームアリーナとすることについては、市民のための体育館にならないと、日本共産党は見直しを求めてきました。

しかし、5,000人の観覧席を3,500人へと変更したのみの基本計画が2019年2月策定され、いよいよ予算化しようとした矢先に、売り上げや入場者のBリーグ基準が厳しくなり、公立の中央体育館をホームアリーナとすることは困難とのストークスの申し出により、基本計画の見直しとなったものです。

見直しの主な内容は上の表のとおりですが、延床総面積で15,000㎡から13,000㎡へ、観覧席は3,500席

から3,000席への縮小です。

現在、市民利用で不足しているアリーナや武道場は拡張、サブアリーナの新設はほぼ基本計画どおりとし、Bリーグの規定を反映させないことから、トイレや250人収容のスイート・ラウンジ(スポーツ活動諸室の転用を想定)、控室等を縮小するものです。

また、施設整備費用は概算で133億6千万円から126億6千万円へ、7億円圧縮されると見込んでいます。

日本共産党西宮市会議員団は、今回の見直しが市民のための体育館となっているか、適切規模か、また、防災機能や災害対策が十分かなどの観点から、検討を進めたいと考えています。

